

いためか、とにかく大歓迎の日々でした。今もなお、日本がサポートしてくれていることを、行政や地域住民にアピールしたいというガンダムさんの気持ちが伝わってくる訪問でした。とって、里親や会員をどんどん増やすという必要もないのではという気もしました。

レイクセブは 1200m ぐらいの高地に位置していて、立派な滝もあり、外国からの観光客の姿もありました。教育支援の対象というだけでなく、違う角度から見ると、別のレイクセブの姿が見えてきます。

通訳として同行した甥は、撮影に夢中で、通訳の役割は余り果たしてくれませんでした。初めてのレイクセブについて、こんなところに住みたいという気もしたようです。

最後に、今回もレイクセブに向かう途中、昼食をいただいたコロナダルの市のパシヨニスト女子修道会のシスターたちから、新修道院建設についての一部会員のご協力に対する感謝の言葉をいただきましたので書き添えさせていただきます。この修道院は、日本人のシスター松田が院長をしていた時期があり、かつては JOFPA の春夏 2 回の訪問の折、必ず立ち寄ったレイクセブ訪問の拠点です

寄稿 3

様々な出会い

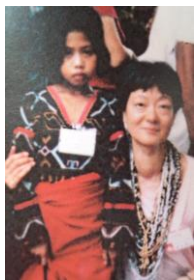
相田陽子

東京から新潟へ越して、1年半ほど。HANDS との関わりも、たまに山崎さんと電話で話しますが、ほとんどメールを介してのみになり、フィリピンを遠く感じていましたが、今回 2 年ぶりに訪問しました。

上杉さんは、ご自分の里子は勿論、息子さんや弟さん、ご友人が去年まで支援していた里子にもできれば会いたいと、担当者ジーノにお願いして、会いたい人皆に会えた大変喜んでおられました。上杉さんには連日訪問者があり、私達も里子の様々な生活を知ることができました。

石渡さんの友人の脇元さんは、去年まで支援していた 16 歳の里子に会えればとジーノに伝えると、「両親は離婚し、それぞれ新しい家庭を持ち、その子の面倒は見ず、あちこちの親戚を頼って生活していたので、どこにいるかわからない」という返事でした。ところが翌日夜、ジーノが自分のオートバイに乗せて、連れてきてくれたのです。脇元さんは勿論、私達皆にとっても嬉しい事でした。今はチボリ町の鉱山で、日雇いで働いているそうです。私はジーノの努力に驚きました。あちこち連絡を取って、本人の所在を探してくれ、迎えに行き、連れてきてくれたのです。超過手当が出るわけでもないのです。感謝の意を伝えると「喜んでもらえれば、こちらにとっても嬉しい」と謙虚に言います。

ラヒット小の卒業式後、帰ろうとすると、私を呼び止める人がいました。くりくりした大きな目、特徴のあるかわいらしい唇。見覚えがあります。一瞬何が何だか分からなかったのですが、その後無意識のうちに抱き合っていました。2000年JOFPAの春の訪問団で来た時会った私の初めての里子マギーでした。写真でしか知らない、民族衣装を着た女の子に、実際に会った時の感激は今でも忘れません。今回は思いもしなかった再会の驚きとわざわざ会いに来てくれた嬉しさ。14年前と変わらないかわいらしさ。涙がとまりませんでした。ラヒット小を卒業し、ハイスクールへ進んだものの、中途退学したとの連絡に、送られてくる写真を壁に貼って、成長を楽しみに



していただけに、がっかりして、その後は、特定の子を支援する気になれず、全体支援にしました。

マギーは結婚して男の子二人の母親になり、ラヒットの実家で暮らしており、夫は別の町で働いていて、月に一度帰ってくるそうです。若々しいきれいな肌に、苦労の様子は見られず、安心しました。



教育支援は、長い目でみないとわかりません。短期的に結果を求めてはいけません。少しでもより良い人生が送れる方向へと向かっていけるように、ちょっと関わる。それがお互いにとっての精神的な支え、喜びであると実感した、今回の訪問でした。